概要その1

市立伊丹病院あり方検討委員会では「5つの課題」が検討されました

【市立伊丹病院あり方検討委員会について】
平成30年5月、市立伊丹病院の今後の方向性を検討するため、伊丹市・宝塚市・川西市の医療関係者をはじめ、兵庫県、大阪大学、市民委員などにご協力をいただき、「市立伊丹病院あり方検討委員会」を設置しました。

1.高度急性期医療を担う中核病院の必要性

課題

●伊丹市国保患者の分析では、伊丹市民の約半数近くが伊丹市外で入院しており、尼崎市、大阪府、西宮市の順に多くなっています。(表1参照)

●入院患者数の多い新生物（がん）、循環器系疾患（脳梗塞、心筋梗塞等）では、尼崎市、宝塚市、大阪府への入院が多い傾向にあります。(表2参照)

方向性

市民が住み慣れた地域で必要な医療を安心して受けることができるよう、医療完結率の向上に努める必要があります。

表1. 伊丹市国保患者の入院医療受診市割合（1月あたり実患者数）

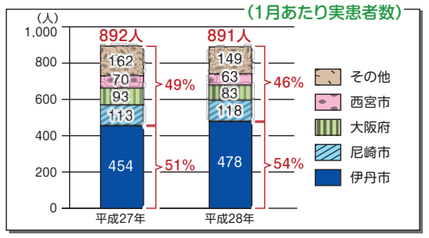
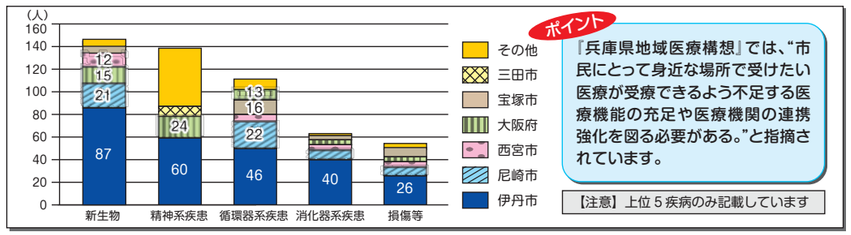


表2. 入院での疾病別受診市（1月あたり実患者数及び伊丹市受診割合）



ポイント
『兵庫県地域医療構想』では、"市民にとって身近な場所で受けたい医療が受療できるよう不足する医療機能の充足や医療機関の連携強化を図る必要がある。"と指摘されています。

【注意】上位５疾病のみ記載しています

4.最適な立地場所の検討

課題

●平成30年度に実施したアンケート調査によると、「公共交通機関による利便性を重要視する」との回答が多く、今後の病院運営の検討に際しては、このような意見を重視する必要があります。(表6・7参照)

表6. 病院へのアクセスに関する市民アンケートの結果

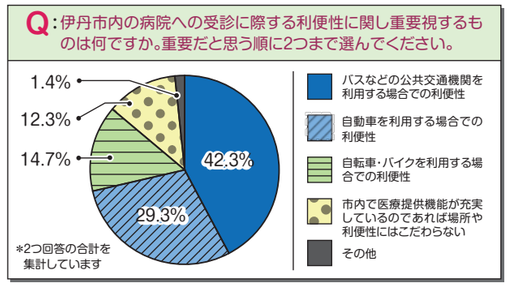
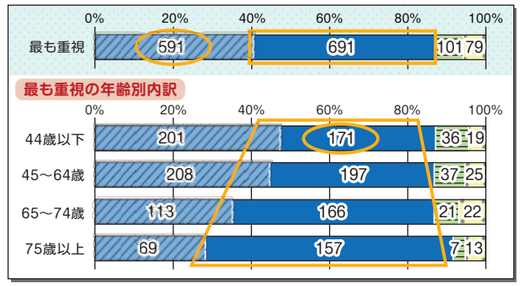


表7. 病院へのアクセス、重要度別集計結果



2. 市立伊丹病院の建替えの最適な時期

課題

●市立伊丹病院の7割以上の病室は、医療法上に定められた面積要件を満たしていない為、新しい医療機器を設置する治療室等の整備が困難な状況にあります。(表3参照)

●自治体病院は全国的な傾向として、築後約39年で新病院を開業しています。市立伊丹病院は建築後35年以上が経過し、老朽化と狭あい化の影響が現れ始めており、建物については、2025年度までは継続して使用できるよう整備を進めています。(表4参照)

表3. 基準不適合の病床割合

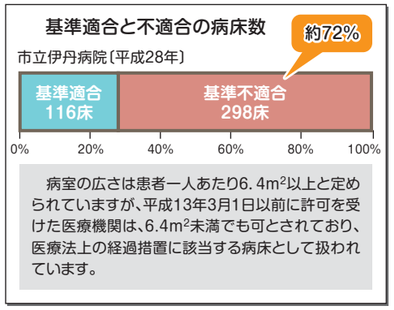
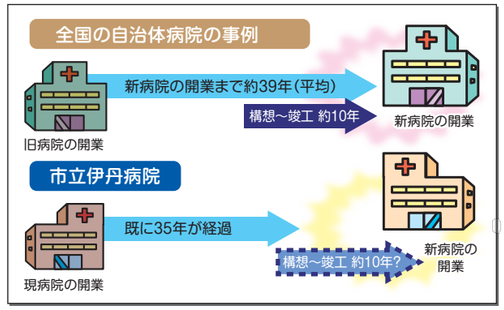


表4. 病院の建て替えスケジュールの事例



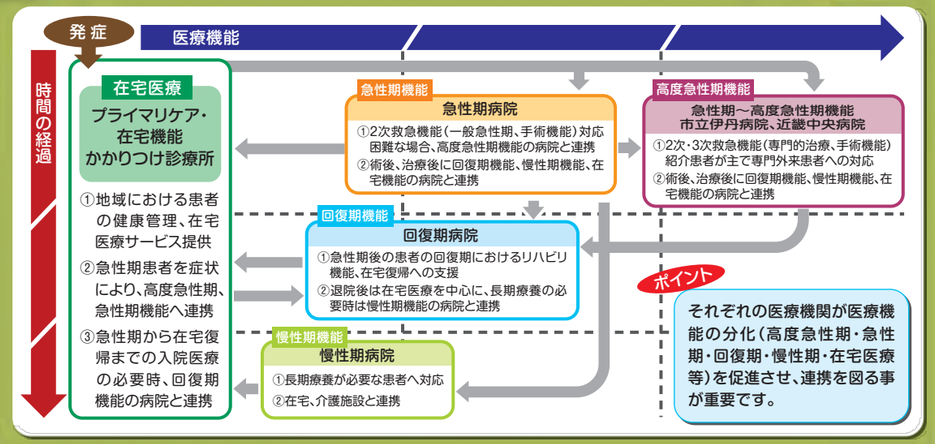
医療機能の分化・連携が必要です

トピックⅠ

地域医療体制構築のために大切なこと

急速な少子高齢化の進展の中、疾病構造の変化や医療需要の増大に対応していくためには、限られた医療資源を有効に活用し、公と民が適切な役割分担の下、医療機能の分化（高度急性期・急性期・回復期・慢性期・在宅医療等）を進め、医療機関の連携強化を図ることが必要です。（表10参照）

表10. 医療機能の分化・連携のイメージ



3. 安定的運営を実現させる病床機能や規模等

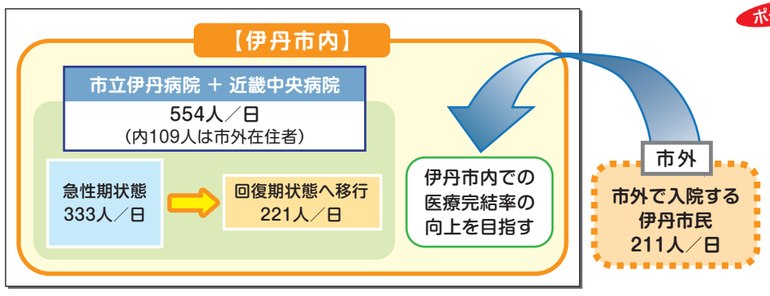
課題

●市立伊丹病院と近畿中央病院の1日あたりの入院患者数は約554人で、その内訳は急性期状態にある患者が約333人、回復期状態に移行している患者が約221人と推計されます。一方、市外での入院患者は約211人と推計されます。(表5参照)

方向性

不足する高度医療の充足を図り、市外の入院患者（約211人）が、市外へ行くことなく、より身近に受診することができる地域医療体制の構築が必要です。

表5. 市立伊丹病院・近畿中央病院入院患者数推計／1日当たり



ポイント
市民の皆さまが、安心して医療を受診していただくために、公・民の適切な役割分担や連携の下、高度急性期から慢性期、また在宅医療を支援できる病床等の確保に努めてまいります。

5. 他の医療機関等との連携のあり方

課題

●市立伊丹病院は、平成28年度決算において、約2.4億円の赤字となっており、厳しい経営状況にあります。近畿中央病院でも平成27年度以降、近隣の基幹病院等の影響を受け、厳しい経営状況が続いています。(表8参照)

●市立伊丹病院と近畿中央病院は、市内の2次救急を担う急性期病院であり、医療機能に大きな差はなく、各々が建て替えの検討、実施時期を迎えています。(表9参照)

方向性

市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を視野に入れ、地域完結型医療を目指します。

表8. 市立伊丹病院・近畿中央病院の経営状況

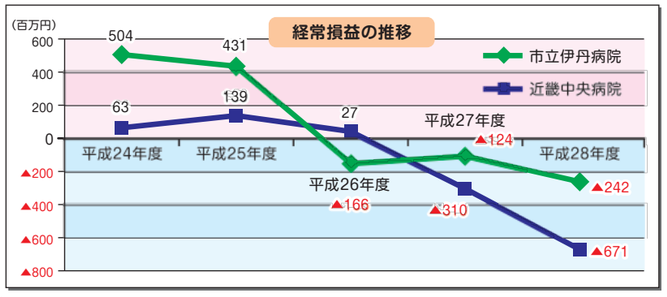


表9. 市立伊丹病院と近畿中央病院の概要

平成30年4月1日現在

項　目	市立伊丹病院	近畿中央病院
開設日	昭和32年9月	昭和31年7月
病床数	許可病床：一般　414床 （うち、ICU・CCU5床、NICU10床、無菌治療室2床、人間ドック9床） 稼働病床：402床	許可病床：一般　445床 （うち、人間ドック37床） 稼働病床：398床
職員数	539名（内専攻医13名）	622.5名（委託職員含まず）

ポイント
市立伊丹病院と近畿中央病院との連携に加え、近隣市における他の公立病院との連携についても、併せて検討していくことが重要です。